

2. 指標設定

成果指標	指標名	異国文化の尊重と交流		目標年度	指標の設定理由			
	数値	—			市内で在住中学生の応募者による参加人数を設定			
活動指標	指標	a	参加人数	b	c		d	
	数値	目標		目標	目標		目標	

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H22	H23	H24
異国文化の尊重と交流		—	—	—
		—	—	—

活動指標名	単位	H22	H23	H24
a 参加人数	人	25 人	22 人	19 人
b		—	—	—
c		—	—	—
d		—	—	—

4. 課題と対応

課題
予算に限りがあり参加人数にも制限がかかってくる
対応（改善点等）
幅広く参加ができるよう努める

5. 事業費・・・H22～H24（決算額）、H25（予算現額）

決算額（千円）		H22	H23	H24	H25
		1,724	1,610	1,564	—
うち経常経費		1,724	1,610	1,564	—
財源内訳	国費				—
	県費				—
	市債				—
	その他	145	1,610	1,564	—
	一般財源	1,579			—
うち経常		1,579			—
事業費に係る人件費		219	215	859	—
事業費に係る人役		0.05	0.05	0.20	—

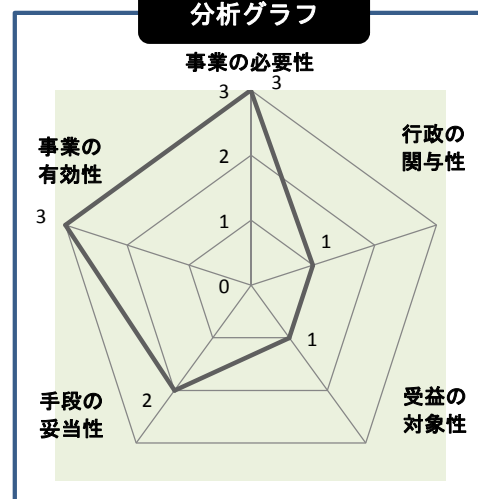
6. H26年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
将来を担う生徒に国際感覚を身につけさせたいため。(H25年度より10.5.1青少年健全育成事業において予算計上)

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 将来の豊後大野市を担う中学生に国際性を身につけさせるためにも必要
② 行政の関与性	責任領域の精査	1 民間によるサービスの供給は可能であるが保護者の経済的負担を考慮しなければならない
③ 受益の対象性	事業対象の確認	1 参加生徒を公募しているが必ずしも公平とは一概に言えない
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	2 国際交流担当部署や他課での事業実施を含め検討が必要
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 参加生徒は事業年度以降も訪問先家庭と交流活動を独自で実施しており効果がある

分析グラフ



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	幅広く参加ができるよう有効な手段を検討すること。